

くらしの支援 NETWORK

5周年記念市民フォーラム

2007-10-07 国際交流会館 イベントホール

ごあいさつ

本日10月7日、国際交流会館イベントホールという人と人の繋がりを感じ合える広さの会場で、くらしの支援 NETWORK の5周年を記念した市民フォーラムを開催できることになりました。きょう集まってくださった皆様と50回目のこの時を共に創ることができますことを、スタッフ一同とても感慨ぶかくよろこんでおります。

1 市民フォーラムのテーマは『福祉コミュニティーの創造』です。今の社会は人が活きる(生きる)意味を見つけ出しにくくなっています。このフォーラムが、コミュニティーにおける人と人との繋がり大切さを今一度、想いかえして見る機会として心に留まればうれしい限りです。そして一人ひとり小さな力でも、自分にできることを見つけだせる機会になればこの上もないよろこびです。

きょうの日を迎えるにあたって、多くの方々のご協力をいただきました。

この場をお借りして感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

くらしの支援 NETWORK  
5周年記念市民フォーラム・スタッフ一同

## くらしの支援 NETWORK

### 5周年記念 市民フォーラム

日 時	2007年 10月 7日(日) 13時より17時
場 所	京都市国際交流会館イベントホール 京都市左京区粟田口烏居町2番地の1
テーマ	福祉コミュニティの創造
参加者	200名
主 催	くらしの支援 NETWORK
後 援	京都府 京都市 京都府社会福祉協議会 京都市社会福祉協議会 京都府介護支援専門員協議会 京都府社会福祉士会 京都府介護福祉士会 京都市教育委員会 佛教大学 京都光華女子大学 京都経済短期大学 京都市西京区社会福祉協議会 (株)コンサート・オフィス音楽院
後援・助成	京都新聞社会福祉事業団 財団ボーダレス基金 (株)パソナ京都 (株)大阪ウェルディング工業 (株)紅粉屋 (医)永原診療会

## 開催要項

介護保険制度の施行に際しての理念は「利用者主体」でした。くらしの支援 NETWORK は、介護の社会化という時代の変革期にあった 2002 年の秋、「当事者主体の介護」についての研究会として活動を開始しました。要介護当事者の主体性、介護ヘルパーの専門性、やがて地域に生きるすべての人たちが当事者となることを前提にした「地域における介護の社会化」をみつめながら介護研究会を重ねてきました。介護という概念が特別な人だけのものにならないように、市民一人一人の生活の質を見きわめていく活動のなかで、やがてたどり着いたのが「暮らしを創る」という概念の提起になりました。

参加者はときに 50 名をこえて床が悲鳴をあげそうでした。その年齢層も下は 3 歳児から上は 95 歳までと幅は広がっています。介護研究を軸としながらも、新春の落語会から初夏のコンサート、そしていち早く AED (自動体外式除細動器) をとりいれての救急救命の体験講習は毎年 7 月に消防署のみなさんと

の恒例行事になっています。

介護研究会の案内人の顔ぶれは月々によってかわります。先生や生徒はつくらないという意味ではワークショップともいえます。視力や聴覚や肢体に障害をもつ人たちが当事者性を発揮して見事な案内人となります。また地域のアーティストや落語家が和みの時間を創りだしています。そして 5 年間の案内書に絵手紙のカットをずっと添えてくださっているのはご近所の 90 歳になる女性です。

地域社会や家族の崩壊が社会問題となって久しくなります。私たち、くらしの支援 NETWORK に集う市民の一人一人は暮らしの当事者性を大切にしています。つまりそれは「自分の生き方」を問い直す日々の作業に反映します。私たちは、人生の主人公としての自分の生き方を模索しながら、日本という文化に相応しい地域や社会に思いをはせます。これまでの活動を単に消費で終わらせることなく、公共的な意味をもつ将来につなげられるように「暮らしを創る」活動を重ねて

います。

2007 年 10 月に私たちの活動は 50 回目を迎えることになりました。今までどおりの 50 回の記念に開場をひろげて、もう少したくさんの方々に参加していただくことにしました。その記念に私たちが掲げたテーマは「福祉コミュニティの創造、です。もちろん大切に行っているのは「一人一人が主人公」ということです。福祉コミュニティの創造に向けて、たくさんの当事者のみなさんが応援にかけつけてくださいます。私たちの考える当事者とは、要介護の当事者だけではありません。その介護にたずさわる家族、介護ヘルパーはいうにおよばず、地域に生きる市民の一人一人、さらに社会学と社会福祉学と経営学という識者の協力を得られることになりました。

次代に向けての「福祉コミュニティの創造、をめざすと同時に、その具体的な提案のひとつとして、くらしの支援 NETWORK は 50 回目の記念フォーラムを開催いたします。

□ プログラム □

12：20～50 受付時間

13：00 序楽章 総司会：吉川美幸

5周年記念フォーラム実行委員長 河内 一

13：10 第1楽章 5年の歩みを音楽とともに

ギター：木村憲司／バイオリン：由利美佐子

13：50 第2楽章 基調講演「コミュニティの可能性」

近藤敏夫 佛教大学社会学部現代社会学科

14：40 第3楽章 お茶とお菓子と参加者の紹介

15：00 第4楽章 市民フォーラム『福祉コミュニティの創造』

小國英夫 京都光華女子大学人間関係学部社会福祉学科

河内 一 地域に生きる家族の立場から

北川美子 暮らしの支援 NETWORK

藤原隆信 京都経済短期大学経営学科

光島貴之 見えない世界をかたちにして伝えたい

堀川 優 コーディネータ

16：40 終楽章 暮らしの支援 NETWORK 北川美子



くらしの支援NETWORK

# 5周年記念コンサート

## 演奏プログラム

ギターコンチェルト	ヴィヴァルディ
マドリガル	シモネッティ
愛の夢	リスト
ノクターン	ショパン
ゴッドファーザー愛のテーマ	ロータ
愛の賛歌	モノー
千の風になって	新井満



## ギター 木村憲司

小学6年と中学2年のとき日本ギターコンクールのジュニアの部でそれぞれ1位となる。2002年一般の部で最高位を受賞。同年には台湾でリサイタルを行う。現在、演奏会や後進の指導にあたっている。特に音楽指導では保育にギターをとり入れた幼児ギター教育や知的障害者の方への教室に力を入れている。

## バイオリン 由利美佐子

6歳よりバイオリンを始める。大阪音楽大学短期大学部器楽部弦専攻バイオリン卒業。1992年中国に演奏旅行参加。1996年テレマン室内楽団と共演。1999年アメリカ合衆国アイオア州立大学で公演。2003年南フランスに演奏旅行参加ほか。現在、京都コンサートオフィス、十字屋フォーラム講師。

くらしの支援ネットワーク、5年の活動を、演奏で応援させて頂いてきて感じた事は、ここの活動をされている、障害を持っておられる方も、介護をされている方も、スタッフのみなさまも、みんな、自由である…と、いう事を感じます。日本の社会は、自由や平等…と、意識して言われているにもかかわらず、文化や風習により、なかなかそれが難しい世の中になっています。

ひとり一人が、心をひらき、自立した考えが持てるように、これからも、くらしの支援ネットワークの活動の発展を、お祈りしています。



## コミュニティの可能性

近藤敏夫 佛教大学社会学部現代社会学科

7 明治以降、地域社会では住民が生活の必要上や、また親睦を深めるために、さまざまな組織を作ってきました。町内会、青年団、公民館活動、同窓会などです。地域の環境を整備・維持したり、メンバーの相互活動を促進したりして、コミュニティが形成されました。しかし、残念なことに戦争を契機にして、そのコミュニティの良さが無くなってしまいました。

高度成長以降、行政サービスによる「福祉社会」が実現したことにより、地域社会が形骸化しています。住民は高齢者、障害者、外国人、母子家庭などに分類され、それぞれのサービスの受容者になっています。住民が共に生活を創造することがなく、コミュニティが解体している状態です。

近年、行政が住民のマンパワーを引き出し、行政と住民の「協働」を模索する動きが出てきました。今、大切なことは、この動きを住民にとって真に良い機会にしていくことです。住民が暮らしの主人公だと

いう前提に立って、新しい福祉コミュニティを創造していくことが求められます。

その方策として、住民がそれぞれの生活課題に応じて活動主体になること、またネットワーク型組織を構築して、住民が自由に参加することが考えられます。さらに、個人のネットワークを通して多くの組織をネットワーク化し、その組織のネットワークが活用できるよう、行政が協働の場を調整、提供することが必要です。

高齢の人、体が不自由な人、外国から来た人など、様々な立場の人が、地域の環境整備や相互活動の主体となり行政と協働していくことが、新しい福祉コミュニティの創出につながります。







小國英夫 京都光華女子大学人間関係学部社会福祉学

「福祉コミュニティ」という概念が社会福祉学に登場したのは1970年であります。地域社会において要介護・要援護等の各種福祉ニーズをもつ人々が主体的に生きていくには、それらのニーズを組織化し、そのニーズを充足するための当事者や家族や福祉関係者による福祉コミュニティが必要である、という考え方です。こうした考えがその後の地域福祉の目標となり、更に今日においては一般コミュニティ形成の理念にもなっています。

しかし現実には要介護高齢者や障がい児・者が地域社会で他の人々と共に主体的に生活できる状況には程遠く、当事者の多くは長期の施設入所を余儀なくされたり、また在宅の場合でも社会的に孤立している場合が実に多いという状況です。しかもそこには介護保険制度などの問題

点が深く関わっているという厳しい現実があります。私はマイケアプラン運動の視点から、皆さんと共に現実の福祉コミュニティや社会福祉制度を根本から見直してみたいと思います。宜しくお願い致します。



光島貴之 見えない世界をかたちにして伝えたい

10歳までの風景は、自分を中心に半径1メートルだった。それ以後、太陽の光はまぶしそうな暖かさだけになった。朝は、匂いと賑わいでやってくる。

人と対話することで、彼らは、僕にとって透明人間ではなくなる。さわることでもののかたちが分かる。聞くことで、街の広がりが見える。視線によって何かを表現することはできないが、さわること、はりをすることで人の気持ちを楽にしたり、体を軽くすることができる。

触覚と音、対物知覚による風景を持つようになって、もう40年以上。

いつの頃からか、見えない世界を伝えたいという思いと、見える世界を知りたいという思いを抱えながら、触覚系アーティストを目指して修行中。



<http://homepage3.nifty.com/mitsushima>

## 北川美子 くらしの支援 NETWORK

くらしの支援 NETWORK はその中身を制度にでもなく政治にでもなく、個人の『いきる意味』にウエートを置いています。制度や政治を無視しているのではなく、個人の『生き方』、『活き方』、そこに大きく意味を見いだそうとしています。人それぞれの『生きる』、『活きる』を思うとき、人が生活する地域のありようやそこでの人と人との関係性は決して切り離すことはできません。

今回の私たちの掲げました命題『福祉コミュニティの創造』では『自分は何にができるか?』を問いかけています。それを200名の参加者のみなさんと共有のできるフォーラム（広場）にしたいと思います。言葉でもなく（精神論）、ものでもなく（制度・政治）、個人として

なにを態度で示せるかに注目しています。くらしの支援 NETWORK の活動は、私になにができるかの『態度』の5年間でした。きょうは、その5年間の披露の広場でもあります。



## 藤原隆信 京都経済短期大学経営学

くらしの支援 NETWORK の設立5周年、誠におめでとうございます。

今回の「市民フォーラム」のテーマである『福祉コミュニティの創造』は、現在の日本社会にとって焦眉の課題であると思われます。かつて明確に存在していた「地域コミュニティ」は希薄化し、人と人との「絆」が弱まっています。経済成長が続いているにも関わらず、多くの国民は将来に対する不安を感じながら日々の生活を送っています。

「何とかしなければならぬ…」、こう感じている方々は沢山いると思います。しかし、そのほとんどは、「何をすれば良いのか分からない…」、「何から始めれば良いのか分からない…」と感じていることでしょう。



今回のフォーラムでは、参加される皆さんと一緒に、このような疑問に対する答えを考えていきたいと思っています。

「今、私達は、どういふ一歩を踏み出せばよいのか？」一緒に考えましょう！

## 河内 一 地域に生きる家族の立場から

何らかの障害を持つ当事者およびその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるためには、地域に於ける医療機関が完備していることや各障害の程度に応じた受け入れ施設の充実は当然のことです。しかしそれに劣らず私が大切なこととして考えているのは、身近に住む地域の人々との会話や地域の人々と共に助け合って何かをつくりあげることだと思います。

11 その結果、当事者が一方的に要介護者であるだけでなく、その家族も含めて、地域社会福祉に役立つ市民の一人として、「自分らしい生き方」のできる地域が増えていくことをめざしていきましょう。



## 堀川 優 コーディネーター

30年前の10月のちょうど今ごろ、6年ぶりに病院から戻って一週間後の私は友人と一緒にこの近くの岡崎にいました。彼の向けるカメラを真っすぐに見られず、レンズの奥がとても怖く想えて目をそらしていました。このとき私はレンズの奥に何かを感じていました。

くらしの支援 NETWORK 5周年記念フォーラムのコーディネーターという大役をお引き受けすることになった根拠は、ひょっとしたらこの写真のなかにあるのかもしれない…と、いたらないところは参加者のみなさんのご協力に頼ることにして、感慨ぶかい気持ちで本日のフォーラムと向き合わせていただきます。どうぞよろしくお願いします。



[http://www1.odn.ne.jp/ yuu-ho\\_my-life/](http://www1.odn.ne.jp/ yuu-ho_my-life/)

## 市民フォーラムを創る人たち

河内 一	北川 一雄	藤原 隆信
北川 美子	北村 美子	藤原 洋子
池本 輝顕	木村 憲司	逸見 邦子
池本 みや子	近藤 敏夫	堀川 優之
稲垣 幾世	坂井 久和	光島 貴之
乾 和代	坂井 良子	三原 薫
梅田 ゆきこ	武本 中彦	森 加代子
大幸 貴英	津田 元子	村 利美佐子
大地 幸枝	寺井 陽子	由利 美幸
荻野 浩一	寺井 陽子	吉川 美幸
荻野 淳子	難波 洋子	
小國 英夫	橋詰 ひとみ	参加のみなさん
影山 舞	廣岡 洋子	会場スタッフ
片岡 聡		
川本 好香		

印刷協力：榊 紅粉屋  
デザイン協力：あそぞら工房



# history & story & season

## 市民版

社会福祉部  
241-6117  
FAX 20264

福祉がはじ  
まるから始  
まるまで  
の活動に  
ぜひご参  
りください

西宮市役所へハルへ入って  
くると、職員が「おはようござい  
ます」と挨拶をしてくる。この  
挨拶が、ハルへの第一歩だ。こ  
れは、西宮市役所が主催する「二  
階市民相談センター」の活動だ。  
この活動は、市民が市役所へ  
入って、市役所職員と直接対  
話することができる。市役所  
職員は、市民の悩みや相談に  
応じてくれる。また、市民が  
市役所へ入って、市役所職員  
と直接対話することができる。

上ル 下ル  
その上、この「二階市民相談センター」の活動は、市民が市役所へ入って、市役所職員と直接対話することができる。市役所職員は、市民の悩みや相談に応じてくれる。また、市民が市役所へ入って、市役所職員と直接対話することができる。この活動は、市民が市役所へ入って、市役所職員と直接対話することができる。市役所職員は、市民の悩みや相談に応じてくれる。また、市民が市役所へ入って、市役所職員と直接対話することができる。

くらしの支援NETWORKの高話会でプロジェクターを視察するメンバー



### 歳末の善意 24団体に

京都新聞社会福祉事業団は、歳末ふれあい募金の資金から福祉活動を支援して、運営助成や設備充実のあわせて五百二十七万円のほどを京滋の二十四団体に贈った。西宮のくらしの支援NETWORK(北川美子代表)には、プロジェクターと大型スクリーンが贈られた。同会員、障害のある人や高齢者の要介護者へヘルパーが共に学ぶ活動をして行い、備品は介護福祉などに使用する北川代表は、大きなスクリーンは目やすく、学習の内容が向上しやすいと喜ぶをいた

## ふれあい広場

### 「段差の衝撃に不快感」

西宮市で、車いす操作など体験  
介護実習  
「段差の衝撃に不快感」  
介護実習  
西宮市で、車いす操作など体験  
介護実習



半身まひの男性の車いすを聞きながら、車いす操作について学ぶ参加者(西宮区川島北側町)



### 「せんが音」の地域住民を招いて

西宮市の健康ヘルパー  
「せんが音」の地域住民を招いて  
西宮市の健康ヘルパー「せんが音」の地域住民を招いて

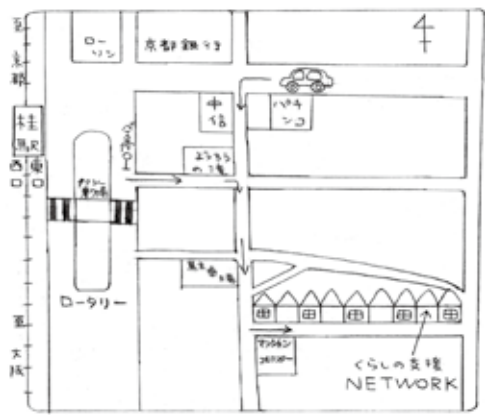


視覚ヘルパーが初めて企画したコンサートで、演奏に付き入る参加者(西宮区川島北側町)





## くらしの支援 NETWORK



〒 615-8107  
京都市西京区川島北裏町 57-2  
Tel・Fax 075-381-2231

<http://kurasinosiennet.sakura.ne.jp/>